

主な活動とその特色

●活力ある故郷の創出

賑わいの創出と経済的な効果を期待し、「下街道散策ツアー」などを企画実施するだけでなく、抹茶を提供する「戦国茶屋」の開店など交流拠点づくりや特産品の開発なども進めている。また、高山城跡のふもとでは、地元ボランティアが「もみじのライトアップ」を行い、多くの来訪者を迎えている。

土岐市高山地区を訪れる観光交流人口は、活動開始前は年間数千人に満たなかったが、現在では約3万人となった。「土岐高山城跡の森」のオープンに伴い今後も増加する見込みである。

ポイント

●何も無いゼロからの出発であった

活動開始時は、住民の関心が高くない状態であったため、ゼロからのグランドデザインを心掛けた。毎月「ビジョン策定会議」を開催し、KJ法による「ワークショップ」などを通して参加者の合意形成を目指した。参加者の自発的な活動を尊重し、特技や興味を活かした学びの楽しさを分かち合えるような工夫をして活動の求心力を高めた。

●官民協働の地域づくり

平成23年11月から「岐阜県まちづくり支援チーム」の派遣、土岐市の支援を受け、さらに（一財）自治総合センター、岐阜県地域活性化ファンド、土岐市社会福祉協議会などから経済的支援を受けて官民協働の活動を展開することができた。

●大学連携

岐阜大学、日本医科大学、中部大学、中京学院大学などとの連携に努め、高等教育機関からの指導や支援を受けた。



活動を方向づけたワークショップ



下街道沿いに建設した高山区民会館

今後の展望

●地域の指導的役割を担う人材の養成

地方都市における人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小がさらに人口減少を加速させることが指摘されている。大学との連携を活用した若者の人材育成、人材の地方への定着は今後の地域づくりに欠かせない。将来にわたって持続可能な地域づくりを実現するために、地域の様々な課題を共に解決し指導的役割を果たす人材の育成が必要であり、今後も積極的に指導者、後継者の養成に努めたい。

●地域づくり活動の他地域への波及と連携

下街道沿いの5つの市の7団体で「下街道サミット」を平成26年8月に結成し、恵那から春日井に至る下街道沿線全体に案内道標や木製灯籠などを設置、散策ツアーを企画するなどした。

保存会の地域づくり活動は周辺市町村に波及効果を受け、今後も広域的な活動を推進する。

ぎふ地域の絆づくり支援センターからのお知らせ

～自治会・町内会活動をはじめ、地域の住民同士が支え・助け合う活動を行っている、または始めたいと考えている皆様へ～

地域が抱える課題（防災、子育て支援、防犯、認知症など）の解決につながるヒントを提供する専門家をアドバイザーとして派遣したり、地域住民の間で課題を洗い出し共有するワークショップを行う場合のファシリテーターを派遣するなど、要望に応じて課題解決の応援をします。

詳しくはホームページ検索サイトで、**地域の課題解決応援事業** と入力して検索。

URL http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/npo-tiiki/community/11260/index_55735.html